

### 第 13 回圧力設備規格審議委員会 議事録(案)

1 日 時: 平成 22 年 10 月 4 日 (水) 14:00~17:00

2 場 所: 溶接学会会議室

3 出席者: (敬称略)

委員: 酒井委員長(TEC)、佐藤副委員長(日揮)、青木(東電)、内野(東ガス)、阿部(物材研)、能登(千代田)、吉田(三井造船)、樋口(IHI テクノ)、寺田(神戸製鋼)、辻(東京電機大)、酒井(東大)、上野(代)織田(日ガ協)、松永(東芝)、松田(三井化学)、加藤(日立)、木原(ﾊﾞｽﾀﾏﾘｱ)

原案作成者: 木原(ﾊﾞｽﾀﾏﾘｱ)、福田(元日鋼)、小林(横国大)、加納(原燃)

事務局: 河野、田中(HPI)

以上 20 名(委員数 16 名)

#### 4 資料番号: 圧力設備規格審議 -13

1 第 12 回圧力設備規格審議委員会 議事録案

2-1 HPIS C108:2010 規格制定案付議書

2-2 HPIS C108:2010

2-3 HPIS C108:2010 解説

3-1 HPIS D117:2010 規格制定案付議書

3-2 HPIS D117:2010

#### 5 議事

酒井委員長の司会のもと、出席委員数が委員会成立の定足数を満たしていることが確認され、以下の議事が進められた。

##### 5.1 前回議事録の確認

資料 13-1 により、前回議事録案が読み上げられた。

5.1 項で、規格を審議した中で出されたコメントについて、委員会としての対応を明確に決めておくとの委員長のコメントに対しては、その後の作業は進めていないとの報告が委員長よりあった。議事録案について挙手による採決が行われ、承認された。

##### 5.2 HPIS C108:2010 「核燃料再処理設備規格 材料規格」の審議について

###### 5.2.1 制定案の付議及び内容説明

事務局より資料番号、13 2 1 の付議書の説明が行われた。3 項、審議レベル の背景、理由に関して小林顧問(再処理設備規格委員会委員長)より以下の説明があった。

機械学会で作成されている規格体系が説明された。機械学会の材料規格は、原子力設備における全てをカバーしている材料規格である。再処理設備用に特殊な耐食性を要求される材料をこの規格に入れることは不適と考え、個別規格として作成し、これを機械学会の材料規格の中に組み込むようになる。再処理設備に使われている実績で規格化して使いたい。今後、この HPIS を新

しく規格化する材料の受け皿にしたい。機械学会は規格を審議するだけで、規格の開発は行わない。HPI は、この規格の原案作成を行っている組織である。

また、資料番号、13 2 2、13 2 3 にもとづいて制定案の概要説明が再処理設備規格委員会、材料規格化WGの木原主査より行われた。

### 5.2.2 審議及び結果

審議レベル について審議され、承認された。また、制定案について審議された内容の主なものを下表に示す。

No.	対象箇所	行	質 疑 内 容	応 答 内 容
1	圧力設備規格審議委員会 構成表		圧力設備規格審議委員会の構成表の指名に誤字あり。 松田広康氏 松田宏康氏	左記の通り修正する。
2	本文		表 5 と表 17 を比べると、降伏点の 1/1.5 と比べて小さい値をとっているが	表 16、17 の値は、5 次式でもとめている。
3	全体		降伏点と耐力は、使いわけているのか	日本の規格は、降伏点又は耐力の 0.2% と決めていて、耐力を使用
4	本文 表 7		耐力の幅が広いが。使う側から、こんなに広くてよいか	JIS、ASME が決めているもの
5	全体		JIS、ASME を両方もってきているが。	ASME の高クロム高モリブデン分析は ASME SB-620 で代表して読むようにしてある。
6	全体		規格番号の書き方( ブランクの入れ方 ) が違う	見直す。
7	本文 3 項		引用規格は最新版となっているが、解説には 98 年版が記載されている。問題ないか	安全係数 4 の時のものを使っているためである。
8	本文		単位系が MPa だが。	国の規準の多くが MPa を使用、今後、HPIS では MPa を使うことをこの委員会で決める。(応力に対しても)
9	本文 4 項		製品分析、溶鋼分析とも表 1 の記述で問題ないか。	問題ない。
10	本文 8,9 項	表	表 18、19 に鍛鋼品をいれないのか。	入れる。
11	本文 2,3 項		2 項用語及び定義と 3 項引用規格を入れ替える。	2 項 引用規格、3 項 用語及び定義とする。

12	本文 4 項	1	ステンレス鋼に関する規格・ ・・・規定・・・	左記の通り修正する。
13	本文 4 項	a)	・・・の鋼棒、鋼板および鋼管は、 ・・・鋼管の種類 <small>の記号</small> は、 とする。	左記の通り修正する。
14	本文 4 項	b)	板及び棒は鍛造又は圧延によ り・・・板及び棒は圧延又は鍛造 により・・・	左記の通り修正する。
15	本文 4.2 項	1	・・・規格は・・・規定は・・・	左記の通り修正する。
16	P11 ~ 15		頁数の位置を変更	左記の通り修正する。
17	全体		チタン、高延性ジルコニウムの 対象用途は。	一般のものもあるが、再処理設 備だけで使われているものを対象 とする。
18	解説表 1 ~ 5		単位：kg/mm <sup>2</sup> でいいか。	引用データなので、このままの 単位とする。
19	解説 1 項	6	(株)日本原子力発電 日本原燃 (株)	左記の通り修正する。
20	解説 1 項	11	・・・手続きを制定された。 ・・・手続きを経て制定された。	左記の通り修正する。
21	解説 2 項		HPI の設定法であるトレンド法 とは。図から見て、決めたとは。	HPIS C104 で規定されている もの。ASME と同様のもの。 基準はなく、委員会で決めた。 変な曲がりがない限り、ASME と 同様 5 次式を採用している。
22	解説 P2		中段の記述で、許容応力値が機 械学会と異なるとなっているが これでいいのか。	HPIS として制定されれば、 HPIS の値を機械学会が引用する ことになる。
23	解説		タンタルとジルコニウムの許 容応力値が同じだが。	タンタルのデータが少ないの で、ジルコニウムの値と同じとし た。
24	解説	図 1	高延性 Zr の設計用の Su 値、 Sy 値のプロット値は何処から	再処理工場を設置許可されたと きの強度の申請値があり、採用し た。

原案作成 WG は、上記表にもとづいて、本文、解説を見直し、修正版を作成することとなった。  
委員長より、修正版が提出された段階で、書面審議に掛けたいとの提案があり、了承された。

### 5.3 HPIS D117:2010「核燃料再処理設備規格 ジルコニウム/ステンレス鋼管継手規格」の審議について

事務局より、資料番号、13 3 1の付議書について説明があり、資料番号、13 3 2について再処理設備規格委員会、管規格化WGの福田主査より逐次説明があった。

審議レベルの要請については、審議の結果、承認された。制定案については、制定の趣旨、制定の内容等、整合に課題が見られるとの委員長見解が示され、福田主査と小林顧問とで見直し、WGに諮った上で修正制定案をあらためて審議することとなった。

## 6 その他

委員会の終わりに、小林顧問より、圧力設備規格審議委員会で審議する予定の規格の確認をするよう提案があった。HPI内の各委員会で作成を予定している規格と作成スケジュールを簡単に纏めたものを委員長と事務局で作成し、次回委員会に提出する。

以上